

平成31年度(2019年度) 県立多賀高等学校 自己評価表

目指す学校像	(1) 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校		
	(2) 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校		
	(3) 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校		
昨年度の成果○と課題△	重点項目	重点目標	達成状況
○ 四大進学者のうち「一般」受検者率 (21.6%→28.4%) ○ 国公立大「一般」合格者(3, 前年同値) △ 自学自習時間が著しく不足 △ 自学自習課題の積極的提供	新大学入試に (1) 対応出来る 進学実力の錬成	① 思考力・判断力・表現力を育む授業の深化を図るとともに、学習課題を積極的に提供し、家庭学習を定着させる。	C
		② 自己分析や大学・職業研究、課外や模試等をより体系的に実施し、希望進路の着実な実現を図る。	
○ HRへの帰属意識が向上 △ SNS等利用モラルの一層の向上	(2) 自治的能力と自律心の育成	③ HRや委員会における企画立案の取組等を積極的に設け、役割意識や責任感、能動的な規範意識を醸成する。	B
○ 1・2年年末部加入率各95%・94% ○ 22部中20部が県以上の出場・入選 △ 休養日の適切な設定、効率的活動	(3) 切磋琢磨の奨励と心身のケア	④ 部活動を奨励し、特技を伸長するとともに、スポーツ・文化・芸術を楽しむ心ややり抜く力、連帯感等を育む。	C
		⑤ 保護者との密な連携やスクールカウンセラーの活用等により、生徒の心理的課題に早期に対応する。	
		⑥ 希望進路実現に備える学びの時間と課外活動の時間を適切に設計できるよう指導する。	
		⑦ 学校閉庁日の設定等により勤務時間の適正化に努めるとともに、行事、課外活動を含む業務の精選、適正化を検討する。	

※H29年度3学年は7学級→H30年度は6学級

※部活動は全20部のうち県大会等があるのは20部

*評価基準：A（十分できている），B（達成できている），C（概ね達成できている），D（不十分である），E（できていない）

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価		次年度への課題
教務	1 教育課程の着実な実施	継続	①各授業時間の確保を徹底(授業交換の徹底, 考査間の各授業実施率の均等化) ②総合・LHRを含めた年間計画を着実に実施	C	C	・授業時間の確保及び均一化 ・観点別評価の各教科における評価システムの構築 ・時間割, 行事計画及びチャイム等の適切な準備
	2 新学習指導要領に向けた研究	継続	①新たな教育課程の研究を推進(教育課程検討委員会) ②授業改善や指導と評価の一体化に関する研修会を実施(授業力向上委員会等)	C		
	3 情報管理の徹底と効率化	継続	考査問題・答案や成績を含む個人情報の管理を徹底 (考査問題・答案の保管, 素点・成績等の取扱いについて毎回注意喚起)	B		
		継続	①校務支援システムの運用マニュアルの充実 ②諸帳簿の効率的な記入・点検体制を構築	B		
教図書係	4 図書館利用の促進	継続	修学旅行, 小論文対策, 「おすすめする本」等のコーナーを作成	B	B	・県図書委員研修会の組織的な運営
		継続	県及び県北地区の図書委員研修会へ2回以上参加	B		
教渉外係	5 PTA活動の活性化	継続	研修事業に加えて学校行事への参加協力を呼びかけ, 新評議員12人を確保	B	B	・全職員による組織的運営 ・各行事における保護者参加者数のさらなる増加
	6 保護者の学校への関心の増進	新規	PTA総会や体育祭に向け, 保護者が参加したいと思う企画を設営	B		
生徒指導	1 問題行動の未然防止	新規	生徒との信頼関係の構築に重点を置いた, 各種生活指導の見直しの検討 (毎朝の昇降口挨拶指導, 容疑再評価の在り方, 年18回の登下校時巡回指導の回数 の再考)	B	B	・要配慮生徒の情報共有のあり方の統一 ・容疑再評価の方法の再考 ・内規の見直しを更に検討
	2 要支援生徒への早期対応	継続	担任と学年教育相談係を中心に早期から保護者と密に連携 SC・SSW等を交えて迅速に組織的に対応	B		
	3 生徒や社会の実態に応じたルールを研究	継続	生活指導に関する学校内規の見直しについて検討 (LGBT等の社会状況の変化に対応するため)	B		
進路指導	1 自学自習習慣の確立	継続	①週末課題・小テストの奨励 ②Classiなどの活用による家庭学習記録 ③毎日SHR終了までに, 家庭学習時間入力を実施 【指標】1学年平日1時間家庭学習者70%以上	B	C	・1・2年次からの学力の錬成(意欲の喚起・自主学習の習慣化) ・朝の小テストの改善 ・生徒によるClassi利用の定着 ・Classiを活用した進路指導の充実
	2 大学一般受験に対応する学力の錬成	継続	長期休業中の少人数の課外指導, 平日課外実施(3年) 【指標】国公立大学5名以上合格	C		
	3 一人一人の進路希望の実現	継続	面談3回実施, 小論文指導等を夏期休業中外部講師により実施 【指標】進路希望実現率95%以上	C		
特別活動	1 生徒自ら企画立案する場の確保	継続	HR活動で5回・委員会活動・学校行事で各2回以上, 企画立案・運営の場を設定	B	B	・HR時間の確保 ・行事の質の向上 ・部活動精選の継続 ・部活動の顧問の配置方法の検討
	2 部活動精選・専門委員会の検証	継続	①原則全員部加入制・特色選抜を含め, 部活動の在り方を検証し精選 ②統廃合した生徒会専門委員会の検証	C		
	3 部活動指導体制の研究	継続	①多様なニーズの生徒を受け入れて運営する部活動の在り方について研究 ②適切な休養を含め, 学校全体で部活動を持続できる指導体制について研究	B		

*評価基準: A (十分できている), B (達成できている), C (概ね達成できている), D (不十分である), E (できていない)

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価		次年度への課題
保健厚生	1 学校環境の美化・整備	継続	ペットボトル, 燃えるゴミ, 弁当ゴミの分別を徹底(保健厚生部で毎月点検・確認を実施)	B	B	・ごみ分別指導の継続 ・歯科通院受診率5割以上 ・老朽化した施設・設備や危険箇所の修繕(事務との連携による)
	2 施設・設備の安全確保	継続	月1回, 保健厚生部による校舎外安全点検と点検簿記入を確実に実施	B		
	3 生徒の健康の保持増進	継続	学校での歯科検診未受診者に対し通院受診を養護教諭による面談指導により促す【指標】通院受診率5割	C		
第一学年	1 学習習慣の確立	新規	クラスシーでの宿題(週2回出題)を計画的に実施。〈生徒実施率8割以上〉	B	B	・家庭学習時間の確保 ・類型に合わせた進路指導 ・進路意識を向上させる取り組み
	2 一般受験による大学進学などの進路意識の醸成	新規	①振り返りアンケート(月3回以上)を実施し, ポートフォリオへの入力を促す。 ②自己適正分析(1回)職業・大学研究(4回)を体系的に実施。	B		
	3 望ましい集団活動の実践	新規	①LHRや行事において, 自発的・自治的に運営できるように助言。 ②年2回以上の生徒面談を実施し, 生徒理解に努める。	B		
第二学年	1 規範意識の育成	新規	HR・集会・行事などを通して協調性や公正な態度を養い, 中堅学年として自覚と責任ある言動が取れるよう促す。	B	B	・クラスシーの定着。学習時間の入力等の指導継続 ・家庭学習の習慣化 ・HR活動の充実による良好な人間関係の構築
	2 基礎学力の向上	新規	進路目標を具体化させ, クラスシーの宿題と動画を活用して目標に適した学習方法を身につける。毎日1時間以上の家庭学習に取り組むと共にポートフォリオ記入に努める。	C		
	3 人間関係の育成	新規	年2回の面談を通して教師と生徒との信頼関係を築くと共に家庭との連絡を密にする。HRや行事を通して生徒間の人間関係の構築に努める。	B		
第三学年	1 大学一般受験による合格者増	継続	進路ホール利用促進 【指標】一般受験者50名, 国公立大学合格5名	C	B	・進路ホール利用促進 ・一般入試受験生の学習環境確保 ・一般受験に向けての意識づけ, 日常生活態度等1年次からの指導が必要 ・進路決定後の目標設定指導強化
	2 自治的集団の完成	継続	①HR活動を自発的・自治的に運営できるよう助言 ②行事や委員会活動において最高学年として集団をリードできるよう適切に助言	B		
	3 悩みに対する心のケア	継続	生徒面談を年3回以上実施して生徒の話を傾聴し, 進路実現のための努力を促す。	B		

*評価基準：A（十分できている），B（達成できている），C（概ね達成できている），D（不十分である），E（できていない）

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度への課題
教科	国語	1 漢字・文法等基礎学力の定着	継続	①副教材を活用した小テスト等を週1回実施(事前指導・事後指導も考慮)(全年) ②漢字検定試験の受検を推奨(受検者10%増)	B	・観点別評価のさらなる改善 ・新学習指導要領における教科の研究 ・年間指導計画の作成と共有化
		2 読解力・思考力の育成	継続	①授業において図書室を年に3回利用し、読書量の増進を図る ②年に2回新聞記事を用いた見出し・感想等の表現する活動を実践(1, 2年)	C	
		3 論理的能力・表現力の向上	継続	①2年から、年に3回、小論文記述・添削指導を実施 ②年に1回スピーチの機会、年に2回小論文を基にしたプレゼンの機会を設定(1, 2年)	B	
	地歴・公民	1 基礎学力の定着	継続	ワークノートを全定期考査後に提出させる	A	・歴史総合・公共の研究 ・ICT機器を積極的に活用し、AL型授業を実践
		2 興味関心を高める授業展開	継続	①資料集や視聴覚・実物教材の活用により、時代背景がイメージしやすくする ②用語集などを積極的に活用し説明にエピソードを多く盛り込む	B	
		3 新学習指導要領への対応 ～特に歴史総合、公共	新規	①AL型授業、記述式問題・ルーブリック評価を研究 ②歴史総合、公共(主権者・消費者教育、道徳・特別活動との連携)を研究	C	
	数学	1 基礎学力の定着	拡充	①週末課題や定期考査前課題を出す【指標】提出率100% ②遅進者に対して個別指導及びclassiの活用推進	C	・数学検定の受検者の増加 ・AL型授業の実践及び研究
		2 思考力・判断力・表現力の育成	継続	AL型授業を半期に5回以上実施	C	
		3 数学検定受検奨励	継続	受検者対象の課外指導を実践 【指標】準2級以上30名以上合格	D	
	理科	1 アクティブラーニングへの改善	継続	①プリント教材を共有、②AL型授業を30%以上実施、③授業相互参観を3回実施	B	・AL型の授業(実験)の実施 ・授業相互参観の積極的実践
		2 体験的学習の推進	継続	生徒による実験を5回以上実施	D	
		3 基礎力・応用力の育成	継続	確認テスト、家庭学習課題、課外を充実 【指標】模試偏差値50以上を5名	C	
	保健体育	1 規律遵守の徹底	継続	始業時の整列やあいさつ、準備体操を主体的に実践させ、指導・評価・助言	B	・体力テストの実施時期・方法を検討
		2 基礎体力の向上	継続	運動学習場面60%を目標に、運動量を確保	B	
		3 わかる保健授業の展開	継続	授業力向上のための科内研究会を月に1度実施	B	
	芸術	1 創作の喜びを実感させる授業の展開	新規	①作品を丁寧に創り上げる楽しさを実感させる ②個に応じたきめ細やかな指導で、生徒の自発的発展を援助する	B	・生徒が自主的自発的に活動する授業形態の研究
		2 言語活動を取り入れた鑑賞教育の充実	継続	①展示スペースの作品展示を充実させ、自作品を客観的に見る機会を提供する ②作品から感じ取ったことを言葉で表現する力を高める授業展開に努める	C	

*評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価		次年度への課題
教科	外国語	1 大学入試に対応できる英単語力の定着	拡充	①授業および単語テストにおいて扱った基本語彙を反復し定着を図る 【指標】小テストにおいて受容語彙70%以上正解, 定期試験での語彙問題において同60%以上正解	C	C	・語彙・文法の定着を図り, 英検等や大学入試(共通テスト)へ対応 ・教育課程の検討(英語表現Ⅰの1年次配当を検討)
		2 英検受検の奨励と合格率向上	拡充	①英検受検を奨励し, 1次試験合格者に対しては個別に2次面接対策を実施する 【指標】3年次第1回英検まで準2級受検者の全員合格, 2級合格者5名以上	B		
		3 センター試験上位層の増大	拡充	①速読力・読解力の向上を目指し, 1年次から総合問題集等の課題を与え, 家庭学習を徹底させる。 ②Classiの学習動画・ウェブテスト機能を予習復習に活用する 【指標】センター試験受験者10%増加, かつ英語の得点率が7割超の者を10名以上	D		
	家庭	1 アクティブラーニング型授業を通して課題解決能力の育成	拡充	身近な題材の中で, 生徒が主体的に考え, 課題を解決する判断力・思考力・表現力を養うよう教材・発問の工夫【指標】アクティブラーニング型授業を30%以上実施	B	B	・実習内容の精選, 研究 ・生徒が取り組みやすい課題解決学習についての研究, 実践
		2 家庭生活を充実向上するために必要な技術レベルの向上	新規	生徒がより実践的に自律した生活を送るための生活面での技術力を高める 【指標】実験・実習の授業を5/10以上実施	B		
	情報	1 情報化社会で必要となる態度・知識・技能の定着	新規	新テスト対応を念頭に知識, 技能の定着を図るAL型授業の拡充研究(年5回以上) 【指標】「情報化社会を生き抜く知識・態度が身についた」者80%以上	B	B	・知識・技能の定着を図るAL型授業研究の充実、授業の実践
		2 個別テーマ研究の実施	継続	テーマの理解, 解決, 自己の考えの形成, 解決法の表現を個別に指導 【指標】「自己の考えを的確に表現できるようになった」者80%以上	B		
		3 主体的・協働的な学びの評価の確立	新規	AL型授業の実践を通じ, 評価方法の確立と, 評価の生徒へのフィードバックする方法を研究 【指標】「自ら進んで他者と協力することができるようになった」者80%以上	B		
総合学習		1 1年:進路学習及び「道徳」の推進	新規	①1学年職員全員及び管理職により各生徒が進路実現に向けた動きがとれるように実施 ②従来の体験的な行事を活かしたテーマ設定・実施形態を研究	B	B	・3年間を見据えた進路行事の精選
		2 2年:進路学習, 平和学習の推進	拡充	①進路指導部と連携し, 自己分析及びポートフォリオ作成を体系的に実施 ②情報科・地歴公民科と連携し, 沖縄修学旅行に向けた調べ学習をより充実	B		・ポートフォリオ作成の徹底
		3 3年:進路学習の推進	継続	①教科・特別活動で得た知識・技能を進学・就職につなげるよう諸準備を推進 ②進路指導部と連携し, 面接や小論文試験に向けた事前準備を組織的に実施	B		・早期進路決定者へのモチベーションの継続
いじめ対応		1 いじめの未然防止・早期発見	継続	①一人一人が自己効力感を得られる出番を確保し, 自信を育成 ②生徒・家庭への定期的な声掛け・電話により信頼関係を構築	B	B	・インターネット環境等(SNS等)の研修の充実
		2 問題発生時の初期対応の徹底	継続	被害者の心のケアを最優先した組織的な対応を徹底	B		
		3 教員研修会の充実	継続	インターネット環境等(SNS等)に関する研修を実施	C		
その他		1 新学習指導要領への対応～カリキュラム・マネジメント	継続	①各教育活動のフローを体系化・見える化し, グランドデザインを構想 ②各教科において, プリント教材, ICT教材, 考查問題の共有化を推進	C	C	・プリント教材, ICT教材等の共有化の推進 ・業務精選のための見なしの実施
		2 働き方改革への対応	継続	教科・特別活動, 分掌部・学年, 部活動において, 業務精選のための見直しを実施	C		

*評価基準: A (十分できている), B (達成できている), C (概ね達成できている), D (不十分である), E (できていない)